

討論

議案等に対する討論は次のとおりです。

- 議案第2号 反対の立場 1件
賛成の立場 1件
- 議案第8号 反対の立場 1件
賛成の立場 1件
- 議案第11号 反対の立場 1件

議案第2号に対する主な討論(要旨)は、次のとおりです。

反対討論

一般会計予算規模は175億2,800万円、前年度に比べ20億4,600万円、13・2%の増である。歳出増に対し、基金を取り崩して充てたということだが、歳入歳出のあり方について、明快な答弁はなかった。行政改革大綱、財政健全化プランという市の方針では、減少傾向の歳入に見合った歳出、そのためには経常支出を抑える、市単独事業は行わない、事業の優先順位の明確化、受益者負担の強化を強調。しかし市長の政治的判断による事業支出も行なわれており、説明に欠ける。限られた財源をどう使うのか、市民生活の充実と向上のために、事業の優先順位の精査が求められる。また、市行政改革大綱の実行は、市民に喜ばれる市政運営に結びつかず、矛盾を生じている。歳出増大は、①銚子市旭市と共同で銚子市内に整備中の、

一般廃棄物処理施設・最終処分場建設費の匠瑳市負担金約29億1,481万円、事務費 約992万円である。財源は、国の震災復興特別交付税21億5千万円と、匠瑳市の合併特例債7億円、一般財源6,821万円である。以降も、ごみ収集の中継施設整備費、銚子市当地の付帯関連整備費等の負担が見込まれる。令和3年度からは、ごみ処理事業の負担金が掛かってくる。市にとつて毎年重い負担となるのでは、何のために広域ごみ処理事業を選んだのかわからない、負担軽減努力を強く求める。②パークゴルフ場の竣工、夏以降のオープンが予定され、半年間の施設管理・事業運営費約1,684万円、令和3年度からは年間3千万円程必要と見込まれる。

③ 匠瑳市版生涯活躍のまち形成事業(社会福祉法人九九里ホームが手がける、飯倉駅周辺整備事業)補助金約5,112万円を支出財源は、国の地方創生推進交付金約2,556万円、市債1,800万円、一般財源約756万円。市債は債務償還時に市の負担となる。社会福祉法人が手がける事業に税金を投入して支援することにについて、精査と検証が必要である。一方、市議会で決議された学校給食費の無償化は、財政上困難

として見送られた。給食費の減額、第3子からの給食費無料について予算計上があった。給食費無償化の必要額1億2千万円というが、実施時期は示されていない。子どもの人口減少は著しく、必要額は減っていくことが予想され、隣町に続いての早期の実現を求める。歳入歳出バランスの調整において、市民負担の強化によることが決していないよう、強く求める。

賛成討論

令和2年度の匠瑳市一般会計予算の規模は、175億2,800万円と、前年度比で20億4,600万円の増となり、これは、令和3年度から稼働開始となる広域ごみ処理施設の建設に係る負担金が、前年度比で約19億8,300万円の増となったことが主な要因であり、市民生活に直結する広域事業がいよいよ大詰めを迎えます。

主な事業では、子育て支援対策として、新たに、産後の母親に対する心理的・身体的な支援等を行う「産後ケア事業」が実施されます。また、本市の新たな公共交通対策を検討するため、地域公共交通会議が設置され、地域公共交通網形成計画が策定されます。さらに、防災対策では、昨年の台風15号等での災害対応を検証し、防災行政無線設備の長時間対応バッテリーの交換や防災資機材、防災備蓄品の充実等、市民の生命・財産を守るための予算が計上されました。

このほか、今年の夏頃にオープン予定の「パークゴルフそうさ」の管理費予算が計上され、子どもから高齢者まで年齢を問わず、スポーツを楽しむ、健康増進にも寄与するこの施設が市民に愛され、大いに利用されますことを期待するものであります。

反対討論

ご承知のように、今日、少子高齢化や人口減少等、地方自治体を取り巻く環境は、一段と厳しさを増しています。その一方で、行政需要は、ますます高度・多様化しており、今後、市民ニーズに的確にこたえるためには、限られた財源を有効に活用し、事業の選択のもと、積極果敢に取り組む必要があると、この度の予算は、そうした市民の要望に真摯にこたえるべく、太田市長を先頭に、執行部が英知を結集して編成した予算であると高く評価するものであります。先ほどの反対討論では、施策が不十分と市長の政治姿勢を問うものでありましたが、十分に取捨選択された結果であると考えております。

執行部におかれましては、引き続き、健全財政を基本に、匠瑳市に住みたい、住み続けたい、関りを持ちたいと感じて頂ける活力と魅力あふれるまちづくりを、なお一層、当たられますことを要望し、私の賛成討論といたします。

でありました。私は四代の市長と論戦してきました。道理ある提案、当たり前市民の願いを実現してきました。匠瑳市は今、岐路に立っています。

賛成討論

市執行部も市議会も、職員も知恵を出し合い、常に市民からみて妥当かどうか判断、業務が原点であります。反対の理由の第1は、計画全体に大局的観点が弱い、国連が呼び掛けている核兵器禁止・家族農業十年の推進、SDGs、匠瑳市都市宣言、議会での提起提案の反映が不十分です。

第2に、計画書に多用されているリーディングプランなど横文字が多く高齢化の中、解りにくい、骨格をコンサルタント依存、職員や市民の企画力、発想力を生かした計画になっていません。第3に、計画に市民の意見を取り入れにくい安易な方法を変えるべきです、市長任命の委員会に諮問、委員は職員であり、区長など「充て職」であり、市の原案を追認する機関となってしまう、市民の意見を聴くとしてパブリックコメントをするのが0件や数件しかありません。

しかし、それを具体化する企画、方針が不鮮明です。一例ですが全国的に評価が高まっている「自然再生エネルギーの里」との協働も一つです。異常気象の中、市のイメージアップとなります。

賛成討論

第5に、基本計画に大事な匠瑳市の歴史、特に民衆の文化、労働の記録保存、発掘、探求、研究、後世に残し引き継いでゆく「匠瑳市歴史・文化保存展示室」開設、「匠瑳市民遺産指定制度」創設するなどの計画がありません。

最後に、「毎月「広報そうさ」で元市職員だった依知川雅一さんが「匠瑳探訪」の表題で寄稿している、貴重な記録であります。是非、本にして普及してほしい。第2次匠瑳市総合計画前期基本計画」は、令和元年6月定例会において、本議会の議決のもとに策定された「第2次匠瑳市総合計画基本構想」に示す施策の大綱の具体化に必要な施策及び事業を総合的かつ体系的に明らかにするものであります。

識をいたしております。また、我々議員に対しても、市議会全員協議会において、丁寧な説明のもとに意見聴取を行い、計画への反映に努められており、正に市民参加、議員参加、職員参加による基本計画がここに結実したものと高く評価するものであります。

反対討論

先人から脈々と引き継がれ、地域に息づく歴史と伝統文化、里山等の豊かな自然と共生しながら、市民が快適に安心して暮らせる元気なまちづくりを推進し、市内外から多くの人が集まり交流することに加え、多様な主体が協働することによって新たな活力を生み出していくことが重要であると

今後とも、市民の声を真摯に受け止め、多様化する市民ニーズに的確に対応し、限られた財源を有効に活用して健全な財政運営を進め、将来都市像に掲げた「海・みどり・ひとがはぐくむ活力あるまち匠瑳市」の実現に向け、市民、議会、行政が一丸となって取り組む「匠瑳市づくり」を切に願いたいし、私の賛成討論といたします。